

(教育委員会用)

平成29年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	入間市
-----	-----

**I 概要**

**1 事業の概要**

- (1) 研究委嘱校3校(小学校2校、中学校1校)合同教員研修会
  - ・ 障害者アスリート(立ち幅跳び選手)による講演会の実施
  - ・ フラインディスク実技研修会
- (2) 障害者スポーツの体験
  - ・ 車椅子バスケットボールチーム選手による講演
  - ・ 児童生徒の車椅子バスケットボール体験、車椅子体験
- (3) 高等特別支援学校との交流
  - ・ 小学校児童と高等特別支援学校生徒とのスポーツ(フライングディスク体験)を通じた交流
  - ・ 小学校特別支援学級児童と高等特別支援学校生徒との交流
  - ・ 中学校特別支援学級生徒と高等特別支援学校との交流及び共同学習
- (4) 障害者講演会
  - ・ 視力障害福祉会の方による講演
  - ・ 児童生徒のアイマスク体験、盲導犬との交流

## 2 事業の成果

### (1) 教職員研修について

- ・児童生徒へ指導するにあたり、夏季休業期間を利用して研究委嘱校3校合同教職員研修を実施しました。具体的には市内在住の障害者アスリート、立ち幅跳びの選手の方に講演をいただきました。また、市の健康福祉課を通じて講師を依頼し、フライングディスクの実技指導をしていただきました。教職員が障害について深く考え、障害に対する理解を一層深める機会となりました。また、児童生徒を教える指導者としての心構えを持ち、指導力の向上を図ることができました。

### (2) 障害者スポーツの体験について

- ・各小・中学校において、プロの車椅子バスケットボールチームの選手を招き、講演会と体験を行いました。障害者交流センターと連携し借用した競技用車椅子を使用して、児童生徒が車椅子バスケットボールを体験しました。選手による実演やルールについての説明や日常生活における努力、工夫も教えていただき、理解を深めることができました。児童の感想の中には「選手の“残されたものを最大限に生かせ”という言葉が印象に残りました。そして私の障害のある方のイメージもマイナスからプラスに変わりました。みんなにもプラスのイメージを伝えたいと思います。」とありました。教員からは「障害とは、車椅子の生活ではなく、そこにある僅かな段差であるとお聞きしました。心のバリアフリーを体験した子どもたちが、これからのバリアフリーを環境面だけでなく、心の面でも実現してくれることに期待します。」という声が聞かれました。

### (3) 高等特別支援学校との交流

- ・スポーツを通じての交流では昨年度同様、児童にも比較的簡にできるフライングディスクを取り入れました。事前の教職員への実技研修も効果的であり、児童生徒は高等特別支援学校の生徒との交流を通じ、言葉かけや配慮の仕方など、お互いの理解を深めることができました。教員の感想の中にも「小学生や高校生も一つのフライングディスクをキャッチアンドスローするなかで、相手の事をおもいやり楽しく活動できてとても良かったです。」とありました。また、特別支援学校の施設を利用することで、施設のバリアフリーの大切さについても学ぶことができました。
- ・上級学校訪問として特別支援学級の児童が高等特別支援学校に出向きました。授業体験や施設見学、職業科等の体験で交流を深めるとともに、将来の就業について考える良い機会となりました。
- ・中学校特別支援学級生徒が高等特別支援学校で、農園芸・服飾・機械のメンテナンス・カフェでの接客などの体験を通じて交流を深めました。

(4) 障害者講演会について

- ・「障害は不便ではあるが不幸ではない」盲導犬の存在の大きさを感じた一方で、児童生徒が自分たちができることについて深く考えることができました。

(5) その他

- ・研究委嘱中学校が中心となり、同中学校ブロックにある4つの小学校の特別支援学級の児童との交流会を行いました。

### 3 事業の課題とその解決のために必要な取組

- ・本年度の事業の内容、その主旨等については地域交流会において、地域の代表の方々に紹介することができました。また活動内容の詳細についてリーフレットにまとめ、市内の小・中学校全校に紹介しました。市のホームページにもリーフレットを公開する予定です。研究委嘱校における道德の授業は保護者にも公開しております。今後も本事業の成果の大きさ、大切さを広く周知し、取組をより広げていくことが課題です。
- ・地元の人材を活用することで費用負担の軽減を図り、委嘱校とならなくても同じような実践ができるようにしていきたいと考えます。
- ・スポーツや共同学習のみならず、児童会生徒会の交流、体育祭や文化祭などの学校行事において交流が広げられるように、今後も連携を図っていきたいと考えます。